

ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2016.3.20

36

春 期
企 画 展

糸と光と風景と

— 刺繍を通してみる近代 —



刺繍画「たきの川」昭和4年(1929)
女子美術大学芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻所蔵

刺繍画「赤羽にて」大正14年(1925)
女子美術大学芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻所蔵

観覧
無料

平成28年

会 期

3月15日(火)～5月8日(日) 午前10時～午後5時

[前期] 3月15日(火)～4月10日(日)

[後期] 4月12日(火)～5月8日(日)

休 館 日

毎週月曜日(ただし3/21(月)は開館)、3月22日(火)

会 場

北区飛鳥山博物館 特別展示室・ホワイエ

協 力

学校法人 女子美術大学

女子美術大学芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻テキストスタイルコース刺繍

糸と光と風景と

— 刺繍を通してみる近代 —



2 「浮間ヶ原にて」大正10年（1921）女子美術大学歴史資料室所蔵
サクラソウが咲く時期の浮間ヶ原で女子美術学校の生徒が遠足を楽しんでいる様子。

明治維新後、日本刺繍が欧米に盛んに輸出されるようになると、刺繍は特に女性の自立につながりうる技能また教養として教育の場においても指導されるようになりました。なかでも明治33年(1900)に設立された女子美術学校(現 女子美術大学)では刺繍学科を設けて、美術表現としての刺繍教育を実践しました。

刺繍が興隆するなか、油彩画や水彩画を思わせる絵画的表現が開発され、「刺繍画」(刺繍による絵画)も盛んに制作されました。その主要な題材の一つとして「風景」があります。当時の女子美術学校の生徒作品には北区域をはじめ各地の風景刺繍画が残されており、都市化する以前の風情が映し出されています。

本展では近代の刺繍の発展と刺繍教育の展開をたどりながら、絹糸で色彩豊かに描かれた美しい刺繍画を一堂にご紹介いたします。

ぜひご観覧ください。



1 「日本刺繍基礎縫」昭和11-14年（1936-39）
女子美術大学歴史資料室所蔵

○往復はがきでお申込みの際は、往信面の裏に催し物名・氏名・フリガナ・住所・性別・年齢・電話番号をご記入の上、北区飛鳥山博物館（〒114-0002北区王子1-1-3）までお申込みください。なお、お申込み多数の場合は抽選となります。

○1・2は電子申請もご利用いただけます。インターネット上で「東京電子自治体共同運営サービス」にアクセスし、「電子申請サービスを利用する」にお進みの上、お申込みください。

◆関連イベント

1. 記念講演会

「**美しき日本の刺繍 歴史と現状、未来へ**」

日本刺繍の歴史とその現状についてお話いただきます。後半は日本の手芸についてゲストと対談をおこないます。

日時：4月16日(土) 午後1時30分～3時

講師：女子美術大学名誉教授 岡田宣世氏

(ゲスト) 共立女子大学名誉教授 伊藤紀之氏

定員：80名(抽選)

申込：往復はがき、または電子申請

4月5日(火) 午後3時必着

2. 刺繍体験講座

「**はじめての日本刺繍—竹屋町繻のミニ額を作る**」

日本刺繍の基本を学びながら、竹屋町繻という技法で素敵なミニ額を作ります。

日時：4月23日(土) 午後1時30分～4時

講師：女子美術大学特任助教 大崎綾子氏

同大 講師 宗 真理子氏

定員：16名(抽選)

費用：2000円程度(材料費)

申込：往復はがき、または電子申請

4月12日(火) 午後3時必着

3. 展示解説 *とくにご覧あそばせ

企画展の内容について担当学芸員がわかりやすく解説します。

日時：①3月26日(土) ②4月24日(日)

いずれも午後1時30分～2時

講師：担当学芸員

申込：当日直接会場へ

VOICE

博物館はメディア

みなさんはメディアというと何を思い起こすだろうか？ テレビや新聞などのマスメディアであるかもしれない。メディアとはラテン語のmedium(メディアム)の複数形で、これを英語読みするとミディアム=中間となる。ここからメディアとは、中間にあって何かと何かを仲介する、結びつけるという意味がある。確かにテレビ局や新聞社は様々な情報を人々に伝えるという機関であり、テレビや新聞そのものはその媒体としての装置なので、メディアそのものといえよう。

このような視点で博物館をみてみるとどうであろうか。博物館は様々な種類の多くの資料を持っている。そして、

そこから引き出された多くのデータや情報、そこからわかった多くの事が蓄積されている。博物館はこのようなモノ(資料)やコト(データ・情報・知識)を、展示や講座、講演会などの博物館活動を通じて、多くの人々に伝えているのだ。ということは展示や講座、講演会は方法としてのメディアであり、それを行っている学芸員そのものもメディアといえるのではないだろうか。モノやコトをヒトに伝える場である博物館はメディアといえよう。そしてそこに集まったヒトとヒトを結びつける、そんな方法(メディア)をこれから模索していきたいと思う。(鈴木)

増田 由貴 (当館調査員)



最近、江戸時代の手習塾で使われた教科書、いわゆる往来物についてお話する機会があった。その折に思い浮かべる絵がある。「江戸名所 飛鳥山花見乃図」、歌川広重が嘉永6年(1853)に描いた浮世絵である。

徳川吉宗によって桜が植樹されて以来、王子・飛鳥山は名所として知られるようになった。一般に開放され鳴物や音曲も許される近郊の地は、江戸庶民の延気(気晴らし)の場となった。そうした情景は多くの浮世絵に描かれており、そのひとつに先に挙げたものがある。丘陵に飛鳥山碑が建ち、近景に巨木の松と満開の桜、遠景には富士山がそびえる。花見の陽光にそろいの着物と傘を身につけて訪れたのは、手習塾の師匠と門下生である。江戸の手習塾では正月の書き初めや七夕などの年中行事があり、学習の様子や成果を発表する場として機能していたが、連れ立って花見に出かける行列もまた春の風物詩のひとつであった。

手習塾での学習は、文字の読み書きが基本であった。全員が同じ学習課程とは限らず、農民は百姓往来、商人は商売往来というように各々の環境や立場に応じて実生活に必要な内容の教材が用いられていた。地域ごとにも内容が異なり、居住地周辺の地名を集めたものが作成されたり、各地域の名所を取り上げたものが刊行されたりした。こうした文字学習の教科書は、おもに書簡文体で構成されていることから往来物と呼ばれた。従来、教育や識字に関する歴史は概念的に捉えられがちであったが、昨今の研究では地域性や個別性が重視されるようになってきている。

名所王子・飛鳥山を取り上げた往来物に『新編王子詣』

(寛政10年、1798刊行)、『飛鳥山往来』(東書文庫所蔵本の跋によれば寛政3年成稿)がある。いずれも江戸市中から王子・飛鳥山への道しるべと、その沿線の寺社や旧跡の由緒・景趣を紹介する内容となっている。その道筋は共通しており、『新編王子詣』は神田下から、『飛鳥山往来』は「家」を出発したのち、上野から谷中・日暮里、中里・西ヶ原を経て飛鳥山・金輪寺・王子権現・王子稻荷社、滝野川の岩屋弁天・不動尊の順にまわり、日が傾いたところで染井方面に帰路をとる。沿線で立ち寄る場所に多少の違いはあるが、江戸六阿弥陀や谷中七福神など主要な寺社は共通している。江戸市中から出発し江戸市中へ向けて帰路をとることから、江戸庶民が北郊の地を訪れる際に用いたルートであったことが知られる。先の浮世絵の子どもたちも、このルートを通ってきたのであろう。

往来物で文字の読み書きとともに、北郊の名所を学んだ子どもたちが実際の地を訪れたとき、その心境はいかなるものであったろうか。文字で読んだ景色が眼前に広がり、賑わいの雰囲気や文字とつながる。文字はイメージを伝える道具として、イメージは文字情報を実体験と結びつけるものとして、彼らの心に刻まれたのではないだろうか。

講座を終えて、自動ドアを出るお客様を見送りながら思う。その目に映る飛鳥山の光景が少しでも鮮やかなものであるように。行きと同じ景色を帰りに見たとき、その心により輝いて映るように。地域への誇りや親しみとともに学ぶ楽しさを共有させていただきながら、この飛鳥山の地で、学びのきずなを深められたらと思う。



歌川広重「江戸名所 飛鳥山花見乃図」 嘉永6年(1853) (当館蔵)

「コン吉のへえ～ そうなんだ!飛鳥山」



みなさんこんにちは。ぼくは北区飛鳥山博物館の宣伝隊長「コン吉」です。今日は、知っているようで知らない?! 飛鳥山のあんなことやこんなことを、博物館の学芸員に聞いてみました。

Q1. そもそも「飛鳥山」って山なんですか?

結論的には山ではありません。上野駅から北行の京浜東北線に乗ると、左手に崖地を伴う台地が上野から王子を経て赤羽まで続くのを確認できます。崖地は東京地方に広く分布している洪積台地である武蔵野台地の一番東端の地形です。これは今から約7000年前の縄文時代早期に奥東京湾が形成された際に波の力で浸食された部分で、海が退いたあと崖地が残ったのです。そして、王子駅の手前約300mの台地の連なりが飛鳥山と呼ばれています。因みに最高所は海拔約25mです。崖地の上は幅100m未満のなだらかな斜面になっており、江戸時代中期に庶民が花見のできる所として開かれました。明治時代には公園化され、幾たびか造園の手が加わり現在に至っています。(中野)



北とびあから俯瞰した飛鳥山一線路に沿って南北に細長く分布しています。(平成3年6月7日撮影)

なるほど!



飛鳥山公園地図



探してみよう。



Q2. 「飛鳥山」の名前の由来ってなんですか?

『江戸名所図会』という江戸時代の書物によると、飛鳥山の地名は鎌倉時代末期の元亨年間(1321~23)に、現在の北区の地を治めていた武士団・豊島氏の一族、豊島左衛門(『太田道灌状』では「勘解由左衛門尉」)が、紀州熊野の飛鳥祠を北区に飛鳥明神として勧請したことに由来するとされます。本来の飛鳥祠とは、現在の和歌山県新宮市にある熊野速玉大社の摂社で、飛鳥明神を祭神とする神社です。豊島氏は平安時代末期に紀伊国守護に任じられて以来、豊島荘を熊野三山に寄進し、またはるばる熊野へ参詣を行うなど紀州との関係を深めていました。その後、江戸時代の初めに飛鳥山の飛鳥明神は王子神社に移されましたが、今も飛鳥山にはかつての飛鳥明神社の狛犬が残されています。(石倉)

Q3. 公園内に石碑はいくつあるんですか?

12基の石碑が建っています。一番古い石碑は、江戸時代中頃(1736年)の「飛鳥山碑」で、飛鳥山に桜を植えさせた8代将軍吉宗を称えるものです。江戸時代から有名だったようで、飛鳥山の花見を描いた浮世絵にもよく登場します。公園の中央、噴水広場の上の高台に建っています。近くには、佐久間象山の弟子勝海舟たちが建てた桜賦の碑(1881年)、農業指導者船津伝次平を称える船津翁の碑(1900年)、日露戦争出征者のために北区を含む北豊島郡の人たちが建てた「明治三十七八年戦役記念碑」(1906年)など、地域の歴史を伝えてくれる石碑が建っています。ほかに歌碑や飛鳥山の標高を示す石碑もあるので、ぜひ探してみてください。(田中)



飛鳥山碑

Q4. 公園内にサクラの木は何本あるんですか？

現在の飛鳥山公園には約650本の桜が植えられています。春に咲く染井吉野や里桜のほか、春と秋にも開花する十月桜という種類もあります。

飛鳥山に最初に桜が植えられたのは、享保5～6年(1720～21)のことです。江戸幕府の8代将軍徳川吉宗により、「赤芽桜」という山桜の一種を主として1,270本が植樹されました。元文2年(1737)の春には、吉宗が幕臣とともに飛鳥山で酒宴を行い、「有楽の地」の事始めとしました。それ以来、飛鳥山は庶民に開かれた桜の名所として賑わうようになりました。浮世絵には、敷物に腰を下ろし酒食や音曲を楽しむ人々の姿や、高台から素焼きの皿を投げて遊ぶ土器(かわらけ)投げの様子などが描かれています。

飛鳥山の桜はその名所性を保つため、繰り返し補植が行われてきました。明治13年(1880)の大規模な植樹の際には、山桜・八重桜各200本に加え、吉野桜300本が植えられました。桜の種類や数は違えど、今も昔も飛鳥山は桜を愛でる多くの人々で賑わっています。(増田)



溪斎英泉「飛鳥山花見」(部分)
天保12～13年(1841～42)頃
子どもが持つ枝は、花と葉が同時に出る山桜。



Q5. 博物館ではどんなことをしているんですか？

北区飛鳥山博物館では「北区のことなら何でもわかる博物館」を目指して、資料の収集や保管、調査研究のほか、その成果を展示やイベントの開催を通して公開しています。

博物館で開催のイベントについては北区公式ホームページや年4回発行の「催し物案内」、年2回発行の「ほいす(博物館だより)」で紹介しています。便利なダイレクトメールサービスもありますので、みなさんぜひご利用ください。(安武)



初めて製作した「顔出しパネル」・・・意外に好評でした！

イベント・レポート

秋期企画展 都電残照'67

—あるカメラマンが見届けた都電ラストラン—

【会期】平成27年 10月24日～12月13日

戦後のモータリゼーションにより、昭和42年(1967)師走に中央通りを走る都電銀座線等9系統が廃止されましたが、本展は王子在住の元フリーカメラマン西山英明氏が年頭から廃止日まで各地で撮り続けた都電の写真群を画像化してグラフィックパネル上で紹介するものでした。

展示では写真家の略歴と仕事・資料の展示手法を導入として、まず昭和42年がいかなる年だったか、年表・電車案内図・系統廃止一覽で説明しました。メインのモノクロ25点・カラー58点の写真は5コーナーに全紙大でレイアウトしたほか、1万分1地形図8枚を2倍に拡大肉眼視ができる5千分1相当にして構成した大地図空間を創り、60年代の中央通り

全体を俯瞰できるようにしました。なお、鉄道友の会大庭幸雄氏所蔵の実物資料も列品し、立体感をもたせました。

会期中フロアレクチャーを2度行い、展示に収めきれなかった事柄や注目点等を担当者が解説しました。最終日には都電の記録映画を3本上映した他、合間に西山・大庭両氏にラストラン当日の様子を証言いただき、都電の魅力や資料収集等についても語っていただきました。

本展では11,567人という大勢の観覧者に恵まれましたが、担当者が初めて資料に対峙した際に直感した「力強さ」を証明したかのようでした。(中野)



学芸員の本棚



『関東大震災の社会史』

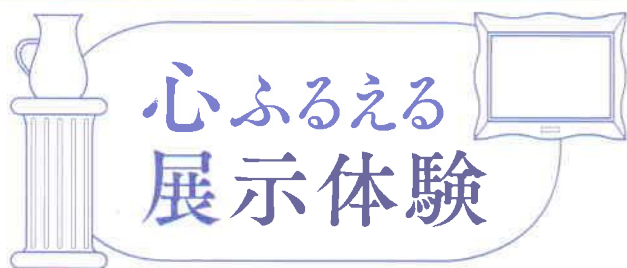
北原 糸子著 朝日新聞出版 朝日選書 平成23年(2011)8月刊行

著者が江戸時代の大地震についての研究書『安政大地震と民衆』（三一書房、のちに講談社学術文庫『地震の社会史』）を刊行したのは昭和58年（1983）のこと。「〇〇の社会史」と名付ければ本になるといった当時の社会史ブームに対して、歴史学の立場から社会史研究のあり方を問い、総絵や施行史料を分析し「災害の社会史」と取り組んだ同書は、近世の災害史やメディア研究をするものにとっては必読の書となりました。

近年になり著者が関東大震災を研究対象としてきた成果が、『関東大震災の社会史』です。刊行は平成23年（2011）8月。同年3月11日に東日本大震災が発生してから半年もたない時期での出版でした。著者は、同書をまとめる段階で起きた東日本大震災での行政・避難者の動きが関東大震災時のものと重なることが多く、眩暈を感ずるほどだったといいます。日々、震災

被害情報が報道されるなかでまとめられた同書ですが、著者の視点は関東大震災による被害の惨状だけではなく、それを乗り越え、震災から復興しようとする人々の姿に向けられます。生活を立て直そうとする被災者の生きる強さとそれを支援する人々のあり方を、両国の復興記念館に保存されている「避難者カード」やバラック調査資料、全国に残された行政資料から丹念に拾い上げていきます。

東日本大震災から5年目の春に、改めて読み直したい1冊です。（田中）



「建築家 フランク・ゲーリー展 "I Have an Idea"」

主催 21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団

会期 平成27年(2015)10月16日(金)～平成28年(2016)2月7日(日)

建築家フランク・ゲーリーの展覧会です。金属が流れるようなフォルムに圧倒された「ビルバオ・グッゲンハイム美術館」や、軽やかなガラスのペールを纏ったような「ルイ・ヴィトン財団美術館」まで、従来の建築の常識にとらわれない建築を次々と発表していく建築家のアイデアの源泉に迫る企画でした。キーワードとなる「I Have an Idea」の文字通り、アイデアがいかにして一つの建築へと収れんしていくのか、ゲーリーの思考過程を視覚化しようとする試みでもありました。一つの建築のために造られた多くの模型とそれらのコンピュータによる構造解析、会場の壁や天井のそこそこに紹介されたゲーリーの言葉の断片の



（撮影：木奥恵三）

数々、展示室を回るにつれ、建築家の頭の中に迷い込んだような錯覚に陥りました。

見学時に、この企画展をディレクションした田根剛氏と技術監修の遠藤豊氏の展覧会の製作秘話にまつわる対談をライブで聴く機会に恵まれました。「建築家がアイデアを建築という形（フォルム）に具現化する過程」をいかにして、ディレクターが「展覧会」という形にまとめていくのか。その過程の試行錯誤と苦労をうかがった上で、本展を観覧しましたが、フランク・ゲーリーの思考の過程と展覧会チームの思考の過程が2重写しのように見えてきて、メタ展示をみるような興味深い経験でした。（山口）

写真に見る あの日 あの時

まぼろしの北区立赤羽自動車練習所

かつて北区に区立の自動車練習所があったことをご存じでしょうか。交通事故防止と青少年職業教育の一環として、北区立赤羽自動車練習所が設立されたのは昭和28年（1953）10月1日のこと、当時でも都内唯一の公営自動車練習所でした。場所は稲付町1丁目415番地（現在の赤羽南1-16）の1,870坪余りの敷地でした。

練習車輦は全部で35台を数え、フォード、シボレーなどの外車のほか、国産ではダットサン、また小型三輪車としては、三菱みずしま号やダイハツ社製、さらに軽自動二輪車がありました。教習車は三輪車や二輪車を除くと戦前製の旧式が多いとはいえ、この写真からは熱心な教習の様子が伝わってきます。教習内容は普通自動車で35教程（教習期間40日）、料金は一時払いで10,000円、小型自動四輪車は18教程（教習期間20日）、料金4,200円となっています。

昭和29年（1954）当時、申込み者は2,468人で、そのうち卒業者は1,347人、在籍者1,015人、退所者

106人となかなかの繁盛ぶりです。地区別の申込み者は北区民が全体の31.8パーセントを占め、次いで板橋、豊島、埼玉県などの近接地が続きました。しかし公営自動車練習所の社会的使命は短く、わずか6年の営業で昭和34年（1959）10月24日に廃止となりました。（石倉）



小型三輪車の荷台横に「北区立赤羽自動車練習所」と記されています。

博物館インフォメーション

北区飛鳥山博物館公式ホームページがリニューアル!

長らくご不便をおかけしておりましたが、このたび当館ホームページのリニューアル作業が終了しました。展示や催し物のご案内のほか、浮世絵でみる北区の姿をご紹介した「北区浮世絵ギャラリー」などをご覧ください。

まずは北区公式ホームページ・トップページ右上の「メニュー」をクリック。そして映し出されたメニュー画面を下にスクロールし、最下部にある「北区飛鳥山博物館」を選択してご利用ください。

新サイトURL(トップページ)

<http://www.city.kita.tokyo.jp/hakubutsukan/index.html>

外国語版常設展示案内に「繁体字版中国語」が登場!

これまでの簡体字版中国語の常設展示案内に加え、このほど繁体字（fán tǐ zì）版も用意いたしました。受付にて無料配布しております。どうぞご利用ください。



ミュージアム・ショップに^{ニューフェイス}新顔登場!

当館収蔵資料の中でも人気の高い「飛鳥山花見」（勝川春潮画）がクリアファイルになりました。1つ200円で4月上旬より販売開始予定です。来館記念やお花見記念に、ぜひお求めください。

『北区のたからばこ - 北区文化財ガイドブック -』を発行しました!

平成24年（2012）春に発行した「未知しらべ道しるべ - 北区文化財ガイドブック -」の領布終了に伴い、このたび新しく『北区のたからばこ - 北区文化財ガイドブック -』を発行しました。今回は80ページと大幅にボリュームアップ! 区内所在文化財について、写真つきでより詳しく解説しています。1冊500円で、4月上旬より当館ミュージアム・ショップおよび区政資料室（北区役所第一庁舎1階）で販売開始予定です。

北区の昔を伝える資料や写真を探しています!

当館では、地域で使われていた生活用具や古い写真など、昔の暮らしがわかる資料を探しています。お心当たりのある方は、ぜひご一報ください（電話03-3916-1133）。

春 3～6月

〈展示〉

- 春期企画展「糸と光と風景と—刺繍を通してみる近代—」
 …… (3/15～5/8)
- ・ 記念講演会「美しき日本の刺繍 歴史と現状、未来へ」 …… (4/16)
- ・ 刺繍体験講座「はじめての日本刺繍—竹屋町織のミニ額を作る」 (4/23)
- ・ 展示解説*とくにご覧あそばせ …… (3/26、4/24)
- テーマ展示「桐ヶ丘遺跡の旧石器」 …… (5/17～10/16)
- スポット展示「(タイトル未定)」 …… (5/24～6/19)

〈講座〉

- 「考古楽講座〈中級編〉考古学を学ぶ—埴輪の話—」 …… (4/9・10)
- 映像企画「東京の中小河川、石神井川の治水を学ぶ」 …… (4/17)
- サロン講座 北区モノ語り「王子埋没段丘の謎を解く!」 …… (5/14)
- 体験講座「アーユレディ? 博物館でお産準備」 …… (5/15・22)
- 「浮世絵に見る飛鳥山と滝野川」 …… (5/21)
- 飛鳥山3つの博物館合同企画「歴史発見! 街めぐり」 …… (5/28)
- 北区遺跡学講座「中里貝塚」 …… (6/4)
- 「北区富士塚めぐり」 …… (6/5)
- サロン講座 北区モノ語り「桐ヶ丘遺跡の旧石器」 …… (6/11)
- 映像企画「東京の地下鉄を学ぶ」 …… (6/12)
- 「江戸の文人墨客が見た王子田楽」 …… (6/19・26)

夏 7～9月

〈展示〉

- 地域しらべスタート展示「とびだせ! 飛鳥山にまつわるエトセトラ」
 …… (7/16～8/28)
- 特別展覧会「第15回 人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」
 …… (9月中旬～10月中旬)

〈イベント〉

- 「夏休みわくわくミュージアム☆2016」 …… (7/16～8/28)
- ・ 都電/地下鉄車庫見学会
- ・ 土器/勾玉づくり教室
- ・ チャレンジ! 昔の手仕事～藍染 ほか

〈講座〉

- 「第28回新聞から読む考古学—2016年上半年を振り返る—」 …… (7/10)
- サロン講座 北区モノ語り「江戸の花見弁当」 …… (7/16)
- 考古楽講座トワイライト編 …… (8/25・9/1・8)
- 「室生厚星の日記にみる郷土意識」 …… (9/18)
- サロン講座 北区モノ語り「(内容未定)」 …… (9/24)

※催し物は仮称のものを含まます。()内の実施日は予定です。
 詳細は、当館発行の催し物案内、北区ニュース、ホームページをご覧ください。

お知らせ

館内消毒にともなう臨時休館

収蔵資料を虫害やカビから守る燻蒸(くんじょう/殺虫・殺菌処理)にともない、6月28日(火)～7月1日(金)は、臨時休館とさせていただきます。詳細な日程は、北区ニュース、北区公式HP等でお知らせいたします。何とぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。

北区飛鳥山博物館だより ぼいす36

〔発行日〕平成28年3月20日
 〔編集・発行〕北区飛鳥山博物館
 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
 TEL. 03-3916-1133
 〔印刷〕川口印刷工業株式会社

学芸員リレーエッセイ

博物館

いろは歌留多

区内にて
 発見夢見て
 遺跡掘る

北区には著名な遺跡が多く所在しています。国史跡中里貝塚をはじめ都史跡西ヶ原貝塚、丸木舟(都指定有形文化財)出土の中里遺跡、環濠集落の飛鳥山遺跡や赤羽台遺跡、ガラス小玉鏝型出土の豊島馬場遺跡、珠文鏡他(都指定有形文化財)出土の田端不動坂遺跡、武蔵国豊島郡衛で名高い御殿前遺跡など、枚挙にいとまがありません。

考古学の醍醐味は何と言っても発掘調査です。地中に眠る先人が残した痕跡は、さまざまなかたちで埋蔵されており、発掘作業では未知との遭遇の瞬間を与えてくれます。その場に携われる調査者はその喜びを享受できます。私が区内で30年以上も発掘調査に関わってきた根源は、そこにあります。さらに、弥生時代の遺跡であれば小銅鐸発見を期待したり、豊島郡衛に隣接する集落遺跡で古代の堅穴住居を発掘すれば最古の貨幣の富本銭が出土しないかなど、新発見の夢を見ながら発掘調査に臨んでいます。こうしたモチベーションを持ちながら発掘調査してきた成果が常設展示のラインアップに結実しているという過言ではありません(中島)。

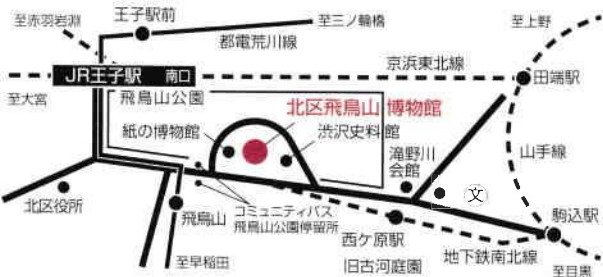
利用のご案内

- 【開館時間】午前10時から午後5時 ※観覧券の発行は午後4時30分まで
- 【休館日】毎週月曜日(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)
- 年末年始(12月28日～1月4日)
- ※このほかに臨時休館日があります。

【常設観覧料】

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧ください。

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
高齢者 (65歳以上)	150円		
小・中・高	100円	80円	240円



交通のご案内
 〔JR京浜東北線〕 王子駅南口より徒歩5分
 〔地下鉄南北線〕 西ヶ原駅より徒歩7分
 〔都電荒川線〕 飛鳥山停留場より徒歩4分
 〔都バス 草64、王40系統〕 飛鳥山公園停留所より徒歩5分
 〔北区コミュニティバス〕 飛鳥山公園停留所より徒歩3分

編集後記

飛鳥山が1年で1番賑やかになる季節がやってまいりました。飛鳥山での散策がもっと楽しくなるようにと、このたび、新企画「コン吉のへえ～そうなんだ! 飛鳥山」をお届けしてみました。もっと知りたいことや教えてほしいことなどのリクエストがありましたら、ぜひお声をお寄せください。お待ちしております。(安武)